

ユネスコ「世界の記憶」国内申請書 (和文)

1.0 申請する記録物又はコレクションのタイトル

増上寺が所蔵する三種の仏教聖典叢書

2.0 申請する記録物の概要 (400 字前後で記載)

仏教は約 2500 年前に古代インドで誕生し、西域を経由して中国に伝えられ、唐代に大蔵経という 5,000 巻超の龐大な聖典集成が結実した。増上寺が所蔵する三種の大蔵経とは、中国の宋代および元代そして朝鮮王朝時代に当時最高の印刷技術で制作された、宋版と元版と高麗版の三種類の総数約 12,000 点に及ぶ木版大蔵経群である。これらは 17 世紀初頭に日本の施政者徳川家康が収集し、増上寺に寄進したものである。その後、関東大震災や東京大空襲などさまざまな危機を乗り越え、今日まで伝承されている。多くの大蔵経が王朝の変遷や戦乱により散逸するなか、15 世紀以前に製作された三種もの大蔵経がほぼ完全な状態で所蔵されていることは世界で他に類を見ない。近代以降、明治と大正時代それぞれに、校訂を施した大蔵経を刊行するため、増上寺で三大蔵が校合され活版印刷による学術編集版となり、大蔵経が広く流通したことで、仏教は近代的学問の対象となった。さらに現代の最先端技術のもとデジタルアーカイブとなり、世界の精神文化史の一環として注目を集めている。

3.0 申請者の連絡先

3.1 申請者 (個人または団体) の名称

- (1) 宗教法人浄土宗 (以下、「浄土宗」)
- (2) 宗教法人増上寺 (以下、「大本山増上寺」) (共同申請)

3.2 申請する記録物との関係 (所有者/管理者など)

所有者は大本山増上寺である。

申請者は大本山増上寺の包括宗教法人にあたる浄土宗、および所有者である大本山増上寺である。

3.3 住所

- (1) 〒605-0062 京都府京都市東山区林下町 400-8 浄土宗 企画調整室
- (2) 〒105-0011 東京都港区芝公園 4-7-35 大本山増上寺 教務部出版課

3.4 電話番号：(1) 浄土宗：075-525-0481

(2) 大本山増上寺：03-3432-1431

3.5 メールアドレス：(1) 浄土宗：kikaku@jodo.or.jp (担当・西)

(2) 大本山増上寺：syuppanka@zojoji.or.jp (担当・古橋)

3.6 共同申請者 (該当する場合)

4.0 権限に関する宣言

私は、自分が本申請書に記載する記録物を、「世界の記録」登録に申請する権限を有することを保証します。

署名 (省略可)

川中 光教 浄土宗宗務総長
小林 正道 大本山増上寺執事長

氏名及び肩書：(1) 浄土宗 川中 光教 浄土宗宗務総長
(2) 大本山増上寺 小林 正道 大本山増上寺執事長

日付：令和 5 年 8 月 1 日

5.0 法的情報

5.1 所有者（個人又は団体）の名前

大本山増上寺

5.2 住所

〒105-0011 東京都港区芝公園 4-7-35

5.3 電話番号：03-3432-1431

5.4 メールアドレス：syuppanka@zojoji.or.jp (担当・古橋)

5.5 所有者と管理者が異なる場合、管理者の名前と連絡先

所有者と管理者は同一である。

5.6 法的状況

重要文化財 昭和 27 年（1952 年）3 月 29 日登録 (図版 A)

5.7 著作権の状況

該当なし

5.8 アクセス容易性（文化的な制限を含め、アクセスにかかる何らかの制限がある場合は記載すること）

増上寺が所蔵する三種の大蔵経の原本へのアクセスは、所有者である大本山増上寺の許可のもと、増上寺内においてのみ閲覧が可能である。

一方、同資料については高精細デジタル画像を作成済みであり、IIIF(International Image

Interoperability Framework)に即して Web 公開され、インターネット上で誰でも自由に閲覧することができる¹。この画像には、1979 年から 1981 年にかけて行われた調査によって得た当該資料の典籍分類と典籍名、著訳者名、紙数、刻工者名、調査時点での資料の保存状態など詳細な書誌情報²もメタデータとして提供されており、同様に閲覧可能となっている³。

6.0 記録遺産の特定及び説明

6.1 申請する記録物／コレクションの名前及び識別情報

(申請記録物)

増上寺が所蔵する三種の仏教聖典叢書

1. 思溪版大蔵経
2. 普寧寺版大蔵経
3. 高麗版大蔵経

(申請機関)

宗教法人浄土宗

宗教法人増上寺

6.2 記録物の種類

書籍 (中国の宋代・元代、および朝鮮の高麗時代の木版本)

6.3 目録又は登録の詳細

当該資料は、

- (1) 中国、宋時代 (12 世紀) に開版され、1250 年から 1276 年の間に印刷された、
思溪版大蔵経、全 94 函、5,342 帖 (折帖装)
- (2) 中国、元時代 (13 世紀) に開版され、1298 年から 1325 年印刷の間に印刷された、
普寧寺版大蔵経、全 285 函、5,228 帖 (折帖装)
- (3) 朝鮮、高麗時代 (13 世紀) に開版され、1458 年に印刷された、
高麗版大蔵経、全 124 函、1,357 冊 (冊子装)

という、三種の大蔵経である。この増上寺が所蔵する思溪版大蔵経 (宋版)・普寧寺版大蔵経 (元版)・高麗版大蔵経 (高麗版)⁴の全仏典名、および著訳者名や紙数などを記載した『増上寺史料集』別巻 (目録本文 1184 頁および索引 42 頁、東京・増上寺、1981 年) が存在する。また本目録を PDF 化したものを、各蔵の全画像、経典索引をデータ化したもとともに、オンライン目録として公開する⁵。

¹ http://jodoshuzensho.jp/zojoji_sandaizo/

² 『増上寺史料集』別巻 (東京・大本山増上寺、1981 年) 所収

³ 思溪版・普寧寺版に関しては、1981 年の調査の際に全紙がマイクロフィルムに撮影された。両版とも 16mm マイクロフィルム (リール) にモノクロで撮影され、概ね 13 コマ毎に切断されたネガフィルムが 1 帖毎にシート (切断されたフィルム 5 本を収納可能) にまとめられ、増上寺内で保管されている。

⁴ 以下、増上寺が所蔵するこの三種の大蔵経を総称して、「三大蔵」と呼称する。

⁵ http://jodoshuzensho.jp/zojoji_sandaizo/

6.4 視覚的な提出物（可能である場合／適切である場合）

三大蔵全体はデジタル画像にして総数 483,245 コマと厩大な画像⁶となるため、ここでは下記画像、および紹介動画⁷を添付する。

思溪版大蔵経（宋版）画像： 図版 B『菩提行経』冒頭および刊記

図版 C『解脱道論』冒頭および刊記

図版 D『大方広円覚修多羅了義経』序

普寧寺版大蔵経（元版）画像： 図版 E『大方広仏華嚴経入不思議解脱境界普賢行願品』願文・跋文

図版 F『大方広仏華嚴経（八十華嚴）』巻第一、冒頭および刊記

図版 G『大般若波羅蜜多経』巻第三、冒頭および巻末

高麗版大蔵経（高麗版）画像： 図版 H『聖金剛手菩薩一百八名梵讃』冒頭および刊記

図版 I『一切経音義』巻第一百「印成大蔵経跋」

6.5 由来／出所

今回の申請対象である「増上寺が所蔵する三種の仏教聖典叢書」の由来／出所については、(1)大蔵経としてそこに書かれた内容に関する由来と、(2)その内容が記録された具体的な資料に関する由来という、二つの側面がある。したがって、以下ではその二点について説明する。

<6.5.1 大蔵経の由来>

今回、申請する「大蔵経」のテキストには、次の二つの側面がある。すなわち、(1)仏典の歴史的な集成であり、そして(2)漢語で書かれたものである。

<6.5.1.1 テキストとしての由来>

2500 年前、古代インドに出現した仏教は、多種多様な民族、言語、社会、宗教をかかえる広範なアジア地域に伝播した。そして、現在ではヨーロッパ各国、アメリカ、南米、オセアニアなどにも広がり、全世界に約 5 億人の信者を有している。長い時間をかけて世界各地に伝播した仏教は、伝播先の宗教や文化を踏まえ、やがてそれらと共存するあらたな世界観を実現し、各地において特色ある仏教集団を形成した。この歴史形成の中心となった存在が、文字で書かれた仏教典籍である。仏教の開祖である釈尊の叡智と実践の記録を核としつつ、伝播とともに拡大と再編を繰り返された仏教典籍は、哲学や教義、戒律、解釈書といったテキストへと発展し、「大蔵経」と呼ばれる叢書を形成した。

大蔵経には、近代語を別とすれば、漢語、パーリ語、チベット語、モンゴル語等に翻訳されたものが現存するが、最初期からの仏教の歴史的発展を持続的に、かつ多様なかたちで反映した記録としては、漢語の大蔵経の歴史的価値が群を抜いている。漢語大蔵経は、紀元前後から 1000 年以上にわたってインドから中央アジアを経て中国へと展開した仏典を、持続的に収集し、翻訳しつづけたものを核として出現した叢書であり、他に類例のない歴史記録の宝庫でもある。中国では、時々の王朝において編纂が行われ、

⁶ 増上寺三大蔵のデジタル画像は、総数 483,245 コマ（思溪版：160,975 コマ、普寧寺版：163,685 コマ、高麗版：158,585 コマ）、全体で 4TB 近くのデータである。

⁷ <https://www.youtube.com/watch?v=kDxRGQbncow>

記録によれば、8世紀の時点ですでに一蔵の総数が5,048巻⁸を数え、その後もより完全な叢書の完成を目指して、逐次に翻訳と追加が行われていった。

<6.5.1.2 印刷刊行物としての漢語大蔵経の由来>

10世紀後半の中国における木版印刷による大蔵経の刊行は、大蔵経に新たな展開をもたらした。これ以降、大蔵経の木版印刷は、中国や朝鮮半島の歴代王朝による国家事業として進められるとともに、他方で経済・文化の発展に伴い個々の寺院や個人によっても制作されはじめた。これほど巨大な規模の汎大陸的なテキスト叢書の刊行が、国家的事業として国や時代を越え、各王朝で実施された事例は、世界の歴史においても稀有なことである。大蔵経制作の歴史的な重層性を通じて、大蔵経保持の本来的な目的が、仏教の護持と伝承を通じた世界の平和と安穩への祈りであったことは、大蔵経制作の状況を記した刊記において随所に現れている。

こうして幾度も刊行された大蔵経であるが、大部である上に木版であったが故に、発行部数が限られており、貴重な財物として諸国間に流通する過程で、王朝の変遷や戦乱により散逸・焼失し、残存するものも分散していった。ここに申請する増上寺三大蔵は、宋・元・高麗という、中国および朝鮮の異なる王朝において編纂された叢書を、いずれも95%以上というほぼ完備に近い状態で、今日まで保存継承してきた、世界で唯一の存在である。さらに徳川家康がこれら三種の大蔵経を日本全国から収集し、増上寺に寄進したことも明らかとなっている。このことから明治32年(1899年)8月1日、古社寺保存法により日本の国宝(旧国宝、現在の重要文化財)に指定されている。

<6.5.2 三大蔵を構成する各大蔵経の由来>

(1) 思溪版大蔵経

思溪版大蔵経は、中国の宋時代⁹、紹興2年(1132年)頃、湖州帰安縣(浙江省湖州市)の思溪円覚禅院において王永従とその一族が願主となり版木を作成したものである¹⁰。これまでの研究によれば、思溪版大蔵経の印刷時期は1250~1276年の間と推定されている。そして、日本への伝来については、建治元年(1275年)に菅山寺(滋賀県長浜市)の僧専暁が中国から持ち帰った。

その後、慶長18年(1613年)、菅山寺より江戸幕府創始者である徳川家康へ献上され、さらに家康が増上寺へ寄進した¹¹。この経緯を簡潔に示すと、以下の通りである。

中国 浙江省湖州市 思溪円覚禅院 (1250~1276年印刷)

↓

日本 滋賀県長浜市 菅山寺 (1275年)

↓

日本 東京 増上寺 (1613年)

⁸ 中国唐代の開元18年(730年)に智昇が編纂した『開元釈教録』による。

⁹ 宋王朝は、北宋時代(960~1127年)と、南宋時代(1127~1279年)に区分される。思溪版大蔵経は南宋時代の制作となる。

¹⁰ この版木は徳祐2年(1276年)、元のフビライ=ハンによる南宋侵攻で焼失した。

¹¹ 徳川家康が菅山寺所蔵の思溪版大蔵経を増上寺に寄進したことについては、『本光国師日記』(慶長18年9月15日付)や、『菅山寺文書』(慶長19年7月27日付)から確認することができる。(『大日本史料』第12篇第6冊：慶長14年3月14日)

(2) 普寧寺版大蔵経

普寧寺版大蔵経は、中国の元時代、至元 27 年（1290 年）、杭州余杭県（浙江省杭州市）の白雲宗総本山、南山普寧寺において住持、古山道安が願主となり、江南地域の諸寺院と協力して版木を作成したものである。これまでの研究および刊記によれば、増上寺所蔵のものは、大徳 2 年～泰定 2 年（1298 年～1325 年）の間の印刷であり、これが日本に伝来した時期・経路については、1407 年朝鮮王朝に対する大内盛見の要請に応じて遣わされ、一時期は山口の興隆寺に設置されていた。

その後、慶長 15 年（1610 年）、徳川家康が増上寺へ寄進したという後世の記録が残っている¹²。これを図に示すと以下の通りである。

中国 浙江省杭州市 南山普寧寺（1298～1325 年印刷）



朝鮮王朝（不詳）



日本 山口県山口市 興隆寺（1407 年）



日本 東京 増上寺（1610 年）

(3) 高麗版大蔵経

高麗版大蔵経は、朝鮮の高麗時代、高宗 35 年（1248 年）、京畿道江華島（仁川広域市江華郡）に設置された大蔵都監において国家事業として版木を作成したものである。この大蔵経は版木が現存していることから、初版以降、現在までに何度も印刷が行われてきた。これまでの研究によれば、増上寺所蔵のものは、印刷時期は李朝の世祖 4 年（1458 年）であり、海印寺（慶尚南道陝川郡）に安置された版木を用いて 50 部を印刷し、国内の諸大寺に奉納した中の一つである¹³。日本への伝来については、文明年間（1469～1487 年）に忍辱山円成寺（奈良県奈良市）の僧栄弘が朝鮮・慶尚南道にあった大蔵経を、成宗 13 年（1482 年）に持ち帰った。

その後、慶長 14 年（1609 年）、円成寺より徳川家康へ献上され、さらに家康が増上寺へ寄進した¹⁴。

朝鮮王朝 慶尚南道 海印寺（1458 年印刷）



日本 奈良県奈良市 円成寺（1482 年）



¹² 寛政 11 年（1799 年）に増上寺が寺社奉行に提出した『御経蔵御再建記』「覚」の記事。

¹³ 高麗版に関しては、2007 年に“MEMORY OF THE WORLD REGISTER”として、韓国海印寺が所蔵する「八万大蔵経版木」“Printing woodblocks of the Tripitaka Koreana and miscellaneous Buddhist scriptures”が登録されている。この韓国海印寺所蔵の版木は 1398 年から 1958 年にかけて改訂整備されたものである。増上寺が所蔵する高麗版は李朝の世祖 4 年（1458 年）に海印寺所蔵版木を用いて 50 部を印刷した中の一部であり、日本伝来後は 15 世紀時点での印刷物のままの姿で保管されてきた。

¹⁴ 徳川家康が円成寺所蔵の高麗版大蔵経を増上寺に寄進したことについては、『円成寺文書』（慶長 16 年 5 月 23 日付）から確認することができる。（『大日本史料』第 12 篇第 6 冊：慶長 14 年 3 月 14 日）

日本 東京 増上寺 (1609 年)

6.6 文献情報

<6.6.1 増上寺三大蔵の書誌的情報>

17 世紀から 19 世紀にかけての増上寺における三大蔵の管理については、18 世紀に作成された三大蔵の目録¹⁵に詳細な記載がある。そして 1981 年には、増上寺で金山正好などを中心として『増上寺三大蔵目録』（『増上寺史料集』別巻、東京・大本山増上寺、1981 年）が作成された。また書物流通史の観点から、以下の研究がある。

Kornicki, P. F. Books in the Service of Politics: Tokugawa Ieyasu as Custodian of the Books of Japan. *Journal of the Royal Asiatic Society* 18, no. 1 (Jan 2008): 71-82.

<https://doi.org/10.1017/S135618630700778X>.

<6.6.2 増上寺三大蔵を基礎とした学術的成果物>

インド・ヨーロッパ語族によって産み出された思想に淵源を持ちつつアジア全域に広く展開した仏教という知的体系の存在は、近代においては東洋・西洋の相互に影響を与え、世界の思想文化に深化と発展をもたらすことになった。この世界的な動向に学術的根拠を与えたのは大蔵経の学術的な校訂出版であり、増上寺三大蔵はこれを実現するにあたり不可欠の基盤を提供し、以下に挙げる三種の活版大蔵経が編纂・出版された。

- ・『大日本校訂大蔵経』1880～1885 年、東京
- ・『頻伽精舎校刊大蔵経』20 世紀初頭、上海
- ・『大正新脩大蔵経』1923～1934 年、東京

<6.6.3 増上寺三大蔵に言及した研究文献：別紙参照>

6.7 申請する資料の価値や出所情報について専門的知見を有する最大 3 名／3 機関までの専門家又は専門機関の名前、〈学術的〉資格、連絡先。

1. Shimoda Masahiro (下田正弘) . Professor Emeritus, University of Tokyo. President, Japanese Association of Indian and Buddhist Studies. Ph.D. (University of Tokyo).
shimoda@l.u-tokyo.ac.jp

2. Jean-Noël Robert. Professeur Honoraire, Philologie de la Civilisation Japonaise, Collège de France.
jean-noel.robert@college-de-france.fr

¹⁵ 随天が 1748 年に記した『縁山三大蔵経目録』所載の「縁山三大蔵経縁起」に、三大蔵個々の由来や、当時の保管巻数に関する記述がある。

3. W. F. Vande Walle. Specially Appointed Professor, Katholieke Universiteit Leuven.
European Association of Japanese Resource Specialists (EAJRS) chairperson
willy.vandewalle@kuleuven.be

7.0 選考基準に対する評価

7.1 一義的基準 — 世界的重要性。以下の重要性の基準 1 つ以上についてコメントすること。

7.1.1 歴史的重要性

「増上寺が所蔵する三種の仏教聖典叢書」の歴史的重要性について説明するにあたり、ここでは、まず (1) その内容である「漢語大蔵経」の歴史的重要性を説明する。そして、(2) それらが 15 世紀以前に木版印刷の形で刊行され増上寺に保存された歴史的背景を踏まえた上で、(3) 増上寺三大蔵の歴史的重要性について提示する。

<7.1.1.1 漢語大蔵経の歴史的重要性>

大蔵経は仏教世界の知に関する包括的な百科全書の性格を有しており、仏教思想に関する文献の他にも、仏教以外のインド哲学に関連する文献、玄奘が当時のインド周辺諸国の詳細な状況を語った『大唐西域記』をはじめとする旅行記、『高僧伝』や『比丘尼伝』などの伝記資料など、その範囲は仏教教義書にとどまらない。また唐代の音義書は、歴史言語学の研究対象となっている。このように大蔵経は、漢語文献であるとともに、その背後には東洋と西洋の思想の交流も含め、広く古代アジア全域の文化を内包しているという点で、仏教が東アジアへと伝播した歴史を象徴する存在でもある。

<7.1.1.2 三大蔵の歴史的背景>

漢語大蔵経は、中国では 10 世紀から 18 世紀にわたり、6 つの王朝のもとで計 13 回、木版の開版・印刷が実施され、朝鮮では 11 世紀と 13 世紀に、日本では 17 世紀に 2 回、開版された。しかし度重なる激動の時代を経るたびに、大蔵経は中国では古いものから散逸していき、朝鮮半島においても高麗時代の新しい版一つのみが保存される結果となった。こうしたなか大蔵経諸版を所蔵することに宗教的価値が見出されていた日本では、中国・朝鮮で刊行された木版大蔵経が各地に遺された。このようななかで完本に近い状態の大蔵経の三種類の版を所蔵する機関は、公表されている限りでは増上寺のみである。

この三大蔵という稀有な状態を作り出したのが江戸幕府初代将軍である徳川家康（1543～1616 年）である。徳川家康は、慶長 8 年（1603 年）に征夷大將軍に任ぜられ、江戸幕府を設置した日本の実質的な統治者であった。この後、日本国内で長期にわたる平和と政治的安定が実現し、265 年にわたって周辺諸国との戦争もない、世界史的にも稀有な時代が始まることとなる。この徳川家康が、増上寺¹⁶を菩提寺として、伽藍の整備や、学問所としての地位向上に尽力し、さらに増上寺に寄進した三種の大蔵経が今回の申請対象である増上寺三大蔵である。

¹⁶ 増上寺は、明徳 4 年（1393 年）に、浄土宗第八祖にあたる西誉聖聰が、江戸貝塚（現在の千代田区紀尾井町）に創建した寺院である。

徳川家康から三種の大蔵經の寄進を受けた増上寺は¹⁷、慶長 18 年（1613 年）9 月に大蔵經専用の書庫である經藏を建立¹⁸した。三大蔵は徳川家康が増上寺に寄進して以後、厳しい管理と門外不出という秘匿性があったからこそ散逸することなく、その後、江戸時代に頻繁におこった大火事、宝永 4 年（1707 年）の富士山大噴火、元禄 16 年（1703 年）や安政 2 年（1855 年）の大地震などのさまざまな自然災害、大正 12 年（1923 年）の関東大震災、そして第二次世界大戦時における昭和 20 年（1945 年）の東京大空襲など、幾多の危機や困難を乗り越えて保存されてきた。

<7.1.1.3 三大蔵の歴史的的重要性>

<7.1.1.3.1 『大日本校訂大蔵經』刊行と三大蔵の役割>

1880 年から 1885 年、大蔵經としては世界初となる活版印刷による校訂テキストとして『大日本校訂大蔵經』¹⁹が刊行された。これは、世界の仏教研究に共通のテキストを提供するとともに、大蔵經校訂の必要性を伝える最初の契機となった。この『大日本校訂大蔵經』編纂の底本および対校本（根拠資料、witnesses）となったのが増上寺三大蔵である。複数の大蔵經を完全な形で所蔵する寺院は存在しなかった上に、大蔵經は門外不出の寺宝とされていたため、当時、大蔵經の諸版を比較・校訂することは困難な状況にあった。このような状況下において、三種の大蔵經を所蔵するという稀有な寺院であった増上寺が、それらの寺宝を仏教研究発展のために供出した。そしてその比較・校訂の成果が『大日本校訂大蔵經』として世界に公開されることとなった。

増上寺側から福田行誠、事業推進者の島田蕃根が出て編纂事業の中心となり、日本中の仏教研究者を集結して増上寺所蔵の高麗版を底本とし、思溪版大蔵經と普寧寺版大蔵經を以て校合作業を進め、418 卷の携帯可能な批判校訂版として刊行した。その後、中国において上海の頻伽精舎により拡大版となって再刊され、彼の地においても大蔵經を容易にアクセスできるものとした。

<7.1.1.3.2 三大蔵の成果としての『大正新脩大蔵經』の刊行>

1924 年から 1934 年にかけて、三大蔵はさらに大きな貢献を成す。世界における仏教研究の標準テキストとなる『大正新脩大蔵經』を編纂するにあたり、再び増上寺三大蔵が校勘資料として用いられた。

『大正新脩大蔵經』は、大蔵經の近代人文学における批判校訂版として、現在まで発刊され続けている。それは、日本のみならず世界の研究図書館（research library）において知識基盤となるリファレンスブック（reference book）と位置付けられている。『大正新脩大蔵經』が世界に流布したことによって、仏教を巡る豊富な研究成果が世界各地で生み出されることとなった。

このような国際的な研究世界の創出が三大蔵を基礎としたものであるという点が、三大蔵の歴史的的重要性の一部を形成している。

¹⁷ 増上寺第 12 世住職の源誉存応が最晩年に書き残した元和 6 年（1620 年）卯月 18 日付の文書には、徳川家康が増上寺に「一切經三部」を寄進し、さらに經藏も建立した旨が記されている。（宇高良哲『近世浄土宗史料集』、東京・青史出版、2019 年、85 頁）

¹⁸ 後に増上寺第 13 世住職となる正誉廓山が、増上寺伽藍の普請を担当した幕府の大工頭の中井正清に宛てた、慶長 18 年（1613 年）9 月 25 日付の書状から、増上寺經藏は慶長 18 年（1613 年）9 月には完成していたことが分かる。（宇高良哲『近世浄土宗史料集』、東京・青史出版、2019 年、65 頁）

¹⁹ 『大日本校訂大蔵經』は携帯目的に小さな判型として刊行され、『縮刷大蔵經』とも呼称される。

<7.1.1.3.3 デジタル研究環境への三大蔵の貢献>

1994～2008年には、SAT 大蔵経テキストデータベース研究会（以下、SAT）が『大正新脩大蔵経』の critical apparatus も含むテキストデータベースを構築し、「SAT 大正新脩大蔵経テキストデータベース」として Web に無料公開した。この知識基盤は、単に仏教の知を発信するものに留まっていない。世界の人文学をデジタル基盤で推進する Digital Humanities の国際学会において、SAT は、洋の東西の人文学を次世代に向けて適切に継承するための重要な基盤としての評価を得ている²⁰。この重要な企図もまた、増上寺に保存され続けた三大蔵に立脚して、はじめて実現し得たことである。

また、三大蔵の校訂を通じて形成された『大正新脩大蔵経』は、仏典における外字を Unicode に登録する際にも役立った。結果として、現在までに 3,000 字超の仏典外字が Unicode に登録、つまり ISO/IEC 10646 に登録された。これも『大正新脩大蔵経』を通じた三大蔵の貢献である。特記すべき件として、慧琳『一切経音義』収録漢字を Unicode に登録する際の ISO への申請では、増上寺が所蔵する高麗版大蔵経に収録された『一切経音義』が最も古いものであったことから、2021 年の登録申請の際のエビデンスとした。これは増上寺三大蔵の稀少性が直接、国際標準規格策定に貢献した事例である。

さらに世界中からデジタル画像開示を切望されてきた増上寺三大蔵を 2023 年 11 月に Web で公開した。このことを通じて仏教が伝える信仰・実践・儀礼の具体的な典拠や、東洋における哲学的思惟の源泉、そして大蔵経に含まれる仏教世界の多様な情報が、三大蔵の子細な様態を伴ったより精緻な形で世界に開かれ、本申請物のデジタル研究環境への貢献がさらに広く深いものとなっていく。

7.1.2 形式や様式

増上寺三大蔵は、いずれも高度な印刷技術のもと木版で印刷されたものである。版木は中国の宋時代（12 世紀）、中国の元時代（13 世紀）、朝鮮の高麗時代（13 世紀）に彫刻され、思溪版（5,342 帖、折帖装、300 mm×114 mm）、普寧寺版（5,228 帖、折帖装、295 mm×113 mm）は、版式が一板一紙、上下単辺、一紙三〇行、毎行十七字、六行一折（一紙五折）を標準としている。思溪版の表紙は黄色もしくは茶褐色、普寧寺版は茶褐色もしくは紺色であるが、紺表紙は元、あるいは高麗で付されたと推測される。高麗版（1,357 冊、袋綴の冊子装、387 mm×289 mm）は、版式が一板一紙、上下単辺、一紙二四行、毎行十四字、各冊とも茶色貼り合わせ表紙となっている。また版木彫刻担当者名が一紙毎に摺られており、思溪版に 461 名、普寧寺版に 557 名、高麗版に 1,560 名の記載がある。特定の時代・地域の刻工者名を伝える点でも、東アジアの印刷文化の具体相を伝える貴重な資料である。

7.1.3 社会、コミュニティ、精神的な重要性

大蔵経は、宗教的にみれば世界の仏教徒の歴史と教義の精神的支柱であり、技術史の上からは東アジアにおける木版印刷技術の結晶である。この大蔵経を、三大蔵という什物として伝承することが、増上寺および浄土宗のみならず、仏教界全体の精神的な支えである。

明治維新後には、廃仏毀釈という仏教界への強い圧力の雰囲気が残る中で、増上寺に日本の各仏教宗派の俊英が集結して一致挙力し、6 年以上の長きにわたり校訂を続け、『大日本校訂大蔵経』418 巻の刊行へと至ったことは、仏教思想を学術的に信頼し得るものへと昇華すべく日本の仏教者達が宗派と

²⁰ SAT の代表をつとめる下田正弘氏は 2012 年にハンブルク大学で開催された Alliance of Digital Humanities Organizations の年次国際学術大会で基調講演をつとめた。

いう垣根を越えて協力した記念碑的なものであり、それを実現したという点で、三大蔵は仏教学のみならず、仏教界のコミュニティ全体にとって精神的な重要性を有している。

さらに三大蔵は、関東大震災の被災を超えて再び日本の学术界を結束させる拠り所となる。それが『大正新脩大蔵経』の編纂であった。このときには世界の仏教研究者や幅広い宗派の仏教者達が編纂作業をはじめとして様々な形で参画し、完成に際しては国も宗派も超えた様々な立場から称賛と祝福の声が寄せられた。大震災後の再建の苦勞のなか、国内外の仏教研究者と仏教者達が手を取り合っテコミュニティを支えていくという貴重な体験の場を提供したものとして、三大蔵はコミュニティにとって特別かつ重要な役割を果たした。

このように増上寺三大蔵は、世界の仏教者の生活と修行、および信仰と思索の精神的支柱として存在し続けている。

7.1.4 ジェンダー平等

大蔵経は多様な仏教典籍の叢書であり、そこには様々な思想が並列的に同居している。仏教の各宗派は自らの思想をそこに組み込み、そしてそこからさらなる思想を展開させてきた。そのような大蔵経の伝統においては、gender equality は全面的に肯定されていたわけではなく、むしろ大部分は男性中心であることに疑いを挟まないものである。しかしながら、大蔵経のそのような多様な性格により、むしろ、女性が救済の主演として登場する典籍や、女性僧侶達の伝記も大蔵経には含まれている。大蔵経は、gender equality のみを表現するものではないにしても、むしろ、女性が優位な場合も含む gender についての古代インドや中国の多様な可能性を伝える書物であり、現代に生きる我々は、その多様さから gender equality の可能性を検討することができる書物であると言える。

7.2 相対的基準。以下の相対的基準の一つ以上についてコメントすること

7.2.1 希少性

増上寺では、ほぼ完本の三種の大蔵経が統合的に管理保存されている。この事例は世界に他になく、増上寺のみである。さらに世界の仏教学研究の基礎をなす点でも、他に類例がない存在である。

7.2.2 完全性、完全度、状態

増上寺に所蔵される本申請物は、

- (1) 思溪版大蔵経 全 5,356 帖のうち 5,342 帖が現存²¹
- (2) 普寧寺版大蔵経 全 5,449 帖のうち 5,228 帖が現存²²
- (3) 高麗版大蔵経 全 1,371 冊のうち 1,357 冊が現存²³

となっている。本申請物は日本国内の他機関に所蔵される同系統大蔵経と比して、いずれも欠本が少なく、相対評価として世界的にも最も完全性を備えたものである。²⁴

²¹ 思溪版の不足分 14 帖のうち 12 帖を黄檗版大蔵経で補っており、欠本は 2 帖となる。

²² 普寧寺版の不足分 221 帖のうち 153 帖を黄檗版大蔵経、6 帖を日本で刊行された春日版（平安時代から鎌倉時代にかけて南都で開版された仏教典籍）、31 帖を書写本で補っており、欠本は 31 帖となる。

²³ 高麗版の不足分 14 冊のうち 1 冊を黄檗版大蔵経で、13 冊を書写本で補っている。

²⁴ 日本国内における増上寺以外の同種版本大蔵経の所蔵機関として、思溪版は最勝王寺、岩屋寺、唐

7.3 重要性の説明

本申請物は、仏教文献叢書であるが、収録される文献の内容の多様性および文化財としての重要性や稀少性から、仏教学以外の分野においても重要な役割を果たすものである。

近代に入り、本申請物は、近代的な批判校訂版の『大蔵経』の基幹的な典拠資料となったことで、学問としての仏教学の基盤を形成するに際して唯一無二の大きな貢献を果たした。

また今般のデジタル研究環境への移行にともない、本申請物は、その世界的な研究基盤である SAT 大蔵経データベースにおいてテキストデータベースの典拠資料として活用され、さらには Unicode における文字符号化の根拠にもなるなど、デジタル時代の世界の宗教・思想研究に根拠を与えてきた。

さらに、本年には、本申請物そのものを高精細デジタル画像として Web に公開した。これによって本申請物が有する重要性は、これからの長きにわたるデジタル時代において、さらに高まっていくことが想定される。

このように増上寺三大蔵は、普遍的な価値を有する人類の知的遺産である。

8.0 関係者との協議

8.1 本申請について、ジェンダーバランスの取れた表現を可能にするような関連する関係者との協議にかかる詳細を記載すること。

「世界の記憶」申請にあたっては、2019年6月より、浄土宗および浄土宗研総合研究所において協議をはじめ、2020年9月からは三大蔵の管理者である大本山増上寺との相談を重ねてきた。

2021年7月以降、増上寺が所在する東京都港区との協議も行っている。また今回の申請にあたり、2021年8月から2023年11月現在まで浄土宗と大本山増上寺が緊密な協議を重ねている。

また2015年1月から2023年11月現在まで、大蔵経のデジタル化について世界的な人文情報学的蓄積をもつ大蔵経テキストデータベース委員会（下田正弘・永崎研宣）との協議を数多く実施しており、この度の三大蔵デジタル公開の実現は、同委員会との長年にわたる共同研究の成果でもある。

9.0 リスク評価

9.1 申請する資料に対する脅威の性質と範囲を詳細に記載すること。

現在、増上寺三大蔵は収蔵庫において、厳重なる管理のもと保存されている。収蔵庫の状態や出納については、学芸員資格を有する増上寺職員が担当しており、文化財としての保存に尽力している。中長期的にもこのままの管理体制のもと保存につとめていく。

現存する経蔵は享和2年（1802年）3月に建立され、関東大震災や東京大空襲での被災も逃れた。昭和50年（1975年）2月に現在の収蔵庫（図版J）を竣工し、昭和52年（1977年）12月から昭和53年（1978年）3月にかけて経蔵から収蔵庫に三大蔵の移管が実施された。

現時点および将来的にも、三大蔵の保存と保管に関する危機的な状況やリスクは小さく、また政治的介

招提寺、興福寺、長瀧寺、大谷大学、喜多院、長谷寺、普寧寺版は浅草寺、東福寺、西大寺、園城寺、南禅寺、安国寺、喜多院、高麗版は大谷大学図書館、金剛峯寺、相国寺、輪王寺、吉備津神社、法然院、多久頭魂神社が挙げられる。ただし、いずれも伝存数において増上寺に及ぶものではない。

入の可能性も極めて低い状況にある。また 2023 年公開のデジタル画像は、浄土宗総合研究所がデータのセキュリティと安全性に配慮しつつ管理と運用を実施する。

10.0 保存と利用にかかる管理計画

10.1 既存の計画があれば、記載するか、文書をスキャンして添付すること。計画がない場合は、検討されている保存、収蔵庫、アクセスに関する戦略の詳細を記載すること。

現在の増上寺収蔵庫は、平成 25 年（2013 年）度に日本国および東京都の補助事業として、①耐震調査および診断、②診断結果に基づいての耐震補強、③環境改善工事などに関する調査と補強工事を実施した。これら近年の耐震の診断と補強、環境改善を実施、通常湿度管理や定期的な計測により、三大蔵を保管する環境として現時点で問題はない。

今後も定期的に、環境計測・観察および診断・補強工事等を実施しつつ、また利用に関してもデジタルアーカイブでの閲覧を勧め、原本の劣化や損傷を最小限にする体制を取っていく。

11.0 申請を後押しするその他の情報

11.1 必要であれば、以下に記載するか、スキャンした文書を添付すること。

今後は増上寺宝物展示室で常設展示し、また 2024 年と 2025 年に予定している東京・京都・九州の三国立博物館での「法然と極楽浄土」展において増上寺三大蔵の展示を行う。また広く国内外に向けて大蔵経の歴史や伝統を伝える予定である。

なお、本申請について推薦者三名（下田正弘、Jean-Noël Robert、W.F.Vande Walle）による推薦状を付すとともに、世界仏教徒連盟（WFB）のパロップ・タイアリー会長による推薦状を付す。

12.0 チェックリスト

- ☑ 要約の記載（セクション2）
- ☑ 申請と連絡先の記載（セクション3）
- ☑ 権限の宣言への署名及び日付の記載（セクション4）
- ☑ 共同申請の場合、セクション4を適切に書き換え、全機関からの権限の宣言がえられていること
- ☑ 法的情報（セクション5）
- ☑ 所有者と管理者が異なる場合、管理者の詳細の記載（セクション5）
- ☑ 法的状況の詳細の記載（セクション5）
- ☑ アクセス容易性に関する詳細の記載（セクション5）
- ☑ 画像に関する著作権の許諾についての記載（セクション5）
- ☑ 目録及び登録簿に関する情報（セクション6）
- ☑ 由来／出所の記載（セクション6）
- ☑ 文献情報の記載（セクション6）
- ☑ 個々の審査員の特定（セクション6）
- ☑ 一義的基準に関する重要性（セクション7）
- ☑ 相対的基準に関する重要性（セクション7）
- ☑ 重要性の説明（セクション7）
- ☑ 関連するものがあれば、関係者との協議にかかる詳細の記載（セクション8）
- ☑ リスク評価の記載（セクション9）
- ☑ 保存と利用の管理計画の要約の記載、または提案する戦略（セクション10）
- ☑ その他の提供情報 ー必要な場合（セクション11）
- ☑ 記録遺産の説明のために特定された適切な品質（300dpi、JPG形式、フルカラーが望ましい）
で作られた写真及びスキャンされた追加的文書

非独占的権利付与に関する契約

参照:

1. a) 私（以下に署名した者）は、以下に記載しているメディアオブジェクトの著作権者です。

タイトル

写真: 図版B 宋版・『菩提行経』冒頭および刊記 (B00001.jpg、B00002.jpg)

図版G 元版・『大般若波羅蜜多経』巻第三、冒頭および巻末 (G00001.jpg、G00002.jpg)

図版H 高麗版・『聖金剛手菩薩一百八名梵讃』冒頭および刊記 (H00001.jpg、H00002.jpg)

(最小解像度600 dpi)

以下「著作物」といい、メディアオブジェクトの全部または一部について、デジタルを含むあらゆる形式で利用、出版、複製、拡散し、公衆に伝達する非独占的権利を無償でユネスコに付与します。

b) これらの権利は、全世界における著作権の法的機関にわたってユネスコに付与されます。

c) 著作物がいかなる形式で使用される場合も、著者の名前が引用されます。

2. 私は証明します。

a) 私は著作物の唯一の著作権者であり、本契約により付与された権利、および著作権に関する国内法
お関連する国際法によって私に与えられたその他の権利の所有者であり、本契約を締結するための完全
な権利を持っています。

b) 本著作物は、既存の著作権やライセンスに対する違反や侵害ではまったくなく、わいせつ、名誉棄
損、中傷的な内容は一切含まれていません。

氏名、住所、所属、メールアドレス、電話番号

日付：2023年8月25日

署名：

氏名：大本山増上寺 執事長

小林 正道

住所：東京都港区芝公園4-7-35

メールアドレス：syuppanka@zojoji.or.jp

電話番号：03-3432-1431



